



International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 20 No.4 2019年 11月

鷺宮卓話

フランシスコ教皇のメッセージ

太田敬雄

大事なメッセージはその全文を知ることが大事です。メディア的にはメッセージの最重要ポイントと思われるところを抽出して伝えますが、それが全てではないばかりか、大事なところがカットされてしまうことも有り、時にはメッセージの真意を曲げて伝えてしまうこともあります。ですから、私は大事だと思う事柄についてはメディア報道に頼らず元を探るようにしています。

さて、今回来日されたフランシスコ教皇のメッセージは、その訳をローマ教皇庁が発表していて、長崎でのスピーチには「核兵器についてのメッセージ」と題までつけられています。それは「核兵器から解放された平和な世界」の実現に向けてのスピーチ、と言うよりは祈りでした。

そのスピーチは一つには世界の国々のリーダーに向けての語り掛けですが、さらに「対話することのできない文化による破滅を前に目を閉ざしてよい人はどこにもいません。」とすべての人への語り掛けでもあります。「いのちの文化、ゆるしの文化、兄弟愛の文化が勝利を収めるよう、毎日心一つにして祈ってくださるようお願いいたします。共通の目的地を目指す中で、相互の違いを認め保証する兄弟愛です。」

教皇は、カトリック教会では名高いアッシジの聖フランシスコの祈りを引用し、それが私たちの祈りとなることを願っておられます。

「主よ、わたしをあなたの平和の道具としてください。」で始まるこの祈りは愛とゆるしと信仰と希望と光とを祈り「悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください。」と締めくくられます。

この祈りは核兵器廃絶のためのものにとどまらず、あらゆる意味で地球社会に平和をもたらすための祈りとなっています。

このスピーチの翌日、教皇は広島でのスピーチで次のように語り掛けられました。

「わたしたちは、ともに歩むよう求められているのです。理解とゆるしのまなざしで、希望の地平を切り開き、現代の空を覆うおびただしい黒雲の中に、一条の光をもたらすのです。希望に心を開きましょう。和解と平和の道具となりましょう。それは、わたしたちが互いを大切にし、運命共同体で結ばれていると知るなら、いつでも実現可能です。現代世界は、グローバル化で結ばれているだけでなく、共通の大地によっても、いつも相互に結ばれています。共通の未来を確実に安全なものとするために、責任をもって闘う偉大な人となるよう、それぞれのグループや集団が排他的利益を後回しにすることが、かつてないほど求められています。」

これこそが、国際比較文化研究所が創立以来目指している「相互理解に基づいた平和な地球社会を創る」というモットーの具体的な実現への道であり、私たちが歩み続けていくべき方向だと確信しています。

【インドネシア小学生の英語教育事情】

渡邊香織さんのフェイスブックから

娘さんが小1、息子さんが幼稚園年長の時にインドネシアのマランに移り、現在娘さんは小6、息子さんが小5です。ここに記されているのは子供さんが通う私立の小学校の事と渡邊さんは断っておられます。

掲載の都合上、添付されていた試験を削除させて貰いましたので、一部かなり加筆修正しています。そこをくゝで括弧しておきました。



渡邊さんと子ども達の近影

インドネシアはインドネシア語を母国語/公用語とし、英語とは無縁の世界なので、英語は、アルファベットが共通以外は発音も文法も意味も全く違う言語です。ということ踏まえて・・・

英語教育は幼稚園から始まります。

幼稚園では簡単な英語の歌や会話を中心に、ライティングスキルよりコミュニケーションに重点を置く教育です。

小学校に入ると、そのコミュニケーション重点から、少しずつ文法の勉強に移ります。

特異なのは、日本の学校のように、文法を決められた順番にやり、その都度、理解できる範囲内の文章を読む練習をするのではなく、文章の中に未習得の文法が少しくらい出てきても気にしない感じで、小さい頃から速読手法を身につける方式です。

つまり、数をこなす。慣れ、です。

小学1年で授業の「英語」が始まりますが、その他の科目は全てインドネシア語です。それが、小学2年になると、算数 理科 社会 に少しずつ英語を取り入れていきます。このタイミングで教科別の英語の専門用語を増やしていくわけです。

小学3、4年では、テストによっては全て英語での実施試験も何度かあります。この時点で、文法こそまだ習得していなくても、専門用語の知識があれば解ける問題も多数ある、という状態に仕上がっています。

そして、小学5年になると、文法にかなり力を入れ始めます。ここから、子供達も今まで見ていた聞いていたものが、こういうことだったのか！と『感覚』から『知識』として確立させる勉強になります。

小学6年もその繰り返しです。

小学校6年間で日本という中学文法を網羅、コミュニケーション能力でいうと高校以上まで及ぶところを学習する感じです。高校に進むと、海外進学が人気なので、英語圏と同じ授業を行い、英語の更なるブラッシュアップを図る期間となります。

＜6年生の今期末リーディング試験では、アメリカのフォード自動車会社の創業者のフォード氏についての伝記が出されました。難しい単語こそないのですが、文法的にはかなり網羅しています。注目すべきはその設問です。ヘンリーフォードを形容詞をつかって一言で表すならば、何ですか？それは何故ですか？ など…概念的で、答えが1つに限らない。自身で考察し回答する設問が多いです。＞

私自身が高校生だった頃でも、こういった設問に回答したことはないかなあ…。プレゼンやスピーチで文章を作ることはあっても、テストでは一問一答クイズ的なものが多かった気がします。大学に入って初めて、自身の言葉を使い、説明する、ということをしたかも。

長くなってしまいましたが、纏めると、

①インドネシアの学校英語教育は、日本より早くやるが、その進み方や学習行程が全く違う（私立公立によって差はある）

②一問一答より概念的要素の濃い問題がある←これはこの学校が特別なのもかもしれません。

③全体的に雑←悪口に聞こえたら訂正。大雑把に全体を把握してから、細かくやる。この雑の技術こそ、その昔Z会からの速読法の基本。分からないところは、飛ばし、概要を掴む、数をこなす、自身を英文に慣らすという学習法（略）です。（以下略）

* * * *

下の写真は2008年に太田が訪問した田舎の公立小学校の授業風景。本文とは無関係です。





たぶんかこうりゅう
多文化交流とは…

国を超え、お互いを知り、
 手をつなぐように心が繋がる。
 そんな本当の友達に出会えるのが
 「多文化交流」です。
 一緒に遊び、語り、笑い、
 美味しいものを食べる。
 これをきっかけとして、
 これからずっと繋がっていく。
 そして私たちの友情の輪が、
 地球に平和を広げていく。
 言葉だけで表せない、感覚と
 感動が詰まっています！

二月は夏と共に「多文化交流」プロジェクトのラッシュ時期となります。左のチラシにありますように、二月十四日から十六日は「多文化交流 in ぐんま2020冬」が例年のように安中の学習の森で開催されます。

そして、二月二十日から二十六日はインドネシアのマランで「多文化交流 in まらん2020」現在それぞれのスタッフがプログラム作りに、参加者募集に奮闘しています。それぞれの場で良い交流の集いが出来ることでしょう。

多文化交流 in ぐんま 2020 冬

みんなで寒さをふきとばせ！

心も絆もぽっかぽか

- 日程：2/14 (金) ~ 2/16 (日) [2泊3日]
- 宿泊場所：安中市学習の森
- 集合場所：安中駅14:40
- 内容：レクリエーション、アイスブレイクなど
- 参加費 10,000円 (申し込み確認後に締込、送金不可)
食費、企画材料費、施設利用費、保険料を含みます。※入浴費は別途
- 使用言語：日本語
- 定員：30名 (先着順)
- 応募条件：18歳以上、全日程参加可能な方
- 応募期間：12/10 (火) ~ 1/17 (金)
- お申し込み：QRコードを携帯で読み取ってください。
(読み取れない場合はこちら↓)
<http://www8.wind.ne.jp/mthc/tg.moushikomi>
- ご質問があればこちらにご連絡ください。《tabunka.gunma@gmail.com》



<主催>
 NPO 法人国際比較文化研究所
 〒379-0124 群馬県安中市鷹宮 3413-3
 TEL (027) 382-5988

<企画運営>
 Student Exchange Team
 多文化交流 in ぐんま 2020 冬 スタッフ

<後援>
 ・安中市
 ・安中市教育委員会
 ・株式会社エフエム群馬
 ・株式会社上毛新聞社
 ・共愛学園前橋国際大学
 ・群馬県立女子大学
 ・高崎経済大学
 ・高崎商科大学
 ・新島学園短期大学

オムニバス講座報告

この秋のオムニバス講座はすっかり台風に振り回されてしまいました。10月12日と16日のプログラムは中止になり、26日から4回の実施になりました。芸能プロダクション FMG 会長の花村ひろ子さん、セネガル青年協力隊の高野綾子さん、IIMS 会長の太田敬雄さん、それぞれのお話を聞きながらの懇談会、そして最後は多文化交流プログラムの企画・運営を担当した坂田くるみさん、宮崎真帆さん、田村珠里さんのパネルディスカッションでした。



親子多文化交流を終えて

共愛学園前橋国際大学 4年 田村珠里

まず、今回インドネシアの子供たちや先生と新たな輪を作るきっかけに携われたことに心から感謝しています。インドネシアから期待を胸に日本までやってきた16名の子供達。ほとんどの子供たちが初めての飛行機に、初めてお家の人と離れて不安な気持ちもあったと思います。通訳スタッフと空港へお迎えに行った初日、私もどんな人たちと出会えるのか緊張と、ワクワクの気持ちでいっぱいでした。東京や群馬を観光し、安中市の小・中学生との交流を通して様々な学びをお土産に笑顔で無事帰れたことに喜びを感じています。



親子多文化交流は、多くの人の協力のもと成り立っています。インドネシアでも、日本へ出発する前に文化の違いのレクチャーを行っていただいたり、ホストファミリーになってくださったみなさんには新たな家族の一員として温かく迎え入れていただきました。学習の森での滞在中のご飯を作ってくださいました食事ボランティアの皆さんのおかげで、毎食ごとに先生も子供達もご飯の時間を楽しみに食文化を学び、通訳をはじめとしたスタッフのみんなのおかげで大きな問題もなく楽しく終えることができました。みなさん本当にテリマカシー！（ありがとうございます！）

これからも「ちがう」ことの面白さを大切に、友達の輪を広げていきたいと思っています。

☆会費や一般のご寄付のお振り込みはカードもしくは郵便振替でお願いします。

年会費は2,000円です。年会費を超えてのお振り込みはご寄付分とさせていただきます。

会費のお支払い・ご寄付は「クレジットカード」または「郵便振替」にて受け付けております。

【クレジットカード決済の手続きはコチラ】



左記QRコード、もしくは下記URLからアクセスして頂き手続き・ご登録ください。
アクセス先のページから「会費の支払い」と「ご寄付」に分かれておりますので、それぞれのページへ進んで頂き、手続きをお願い致します。

(<http://www8.wind.ne.jp/mthc/iims-cardannai>)

【郵便振替はコチラ】

下記口座まで直接お振込み下さい。

●加入者名：国際比較文化研究所

●口座番号：（普通）00510-0-61974

※ゆうちょ銀行から振込可能な口座です。

※通信欄に「会費」または「寄付」とご記入ください。

会費・寄付＜敬称略・順不同＞（9/14～11/30）

会費並びにご寄付を有難うございます。皆様に支えられて国際比較文化研究所は今後とも「平和な地球社会の実現」に向けての諸活動に邁進して参ります。

新入会員：斉木雄作

会費：宇賀神正美・真実（'17-19）、遠間徹也、村田元、斉木雄作、

寄付：鴨志田博、松香光夫、宇佐美若奈（毎月）、藤本恵大（毎月）、片岡謙（毎月）、内野春香（毎月）、花村ひろ子、村田元、阿部洋一、杉山亜湖（多文化交流）、安中ひだまりマルシェ。

編集後記：

11月中には皆様のお手元に届けたいと思っていましたが、すでに12月ですが何とか年内にお送り出来そうです。

みなさま温かい年末と希望にあふれる2020年をお迎えください。（T）

発行 特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

研究所ホームページ：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

メールアドレス：totatakao.iims@gmail.com

まなぼる：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

メールアドレス：mail@manapal.jp

郵便振替口座番号：00510-1-61974